

り、院内感染の防止はもとより、地域全体の感染症についても情報を集め、対策を立てています。こうした地道な活動は、長崎県全体における感染症のまん延防止に重要です。

さらに、1967年に風土病研究所から改称した熱帯医学研究所では、ケニアとベトナムの海外教育研究拠点でのマラリア、住血吸虫症、トリパノソーマ症、コレラ、デング熱、黄熱、小児の呼吸器感染症や下痢症などについて、現地の研究者らと協力して幅広い研究を展開してきました。それら

の研究は、国内外で成果をあげ、多数の命を救ってきました。

このコラムでは、これらの感染症に対する長崎大学の取り組みを紹介していきます。

創刊号からの掲載予定

2015年12月号(創刊号): 熱帯医学研究所の歴史
2016年1月号: 長崎大学病院呼吸器内科
2016年2月号: 熱帯医学研究所病害動物学分野
2016年3月号: 長崎大学病院感染制御教育センター
2016年4月号: 熱帯医学研究所小児感染症学分野

新興・再興感染症

このコラムでは、最近になって見つかった新しい感染症(新興感染症)と昔からあったけれど最近になって再び流行が始まった感染症(再興感染症)について、解説します。

新興・再興感染症とはどんな病気?

新しい病原体による感染症を「新興感染症」といいます。HIV感染症や腸管出血性大腸菌感染症、海外ではエボラウイルス病、SARS(重症急性呼吸器症候群)などがそうです。

新興感染症がすべて命にかかわるわけではありませんが、SARSのように、最初は原因や感染経路がわからず、あっという間に広がってしまう危険性があります。ワクチンや治療薬ができるまでには長い時間がかかるので、予防や治療が難しい病気といえます。

一方、予防接種や抗微生物薬などによって、患者がほとんどいなくなっていたのに、病原体や環境の変化のために、再び流行しはじめたのが「再興感染症」です。

再興感染症は、病原体が“進化”して、治療薬が効かなくなることがあります。その代表が結核です。年々減少していた結核は、1997年ごろから再び増えており、なかでも多剤耐性結核と呼ばれるタイプは、従来の結核治療薬の効き目がまったくありません。「薬があるから大丈夫」と思っている、それが効かないのが、再興感染症の怖いところです。

新興感染症

- HIV感染症
- エボラウイルス病
- 腸管出血性大腸菌感染症
- 鳥インフルエンザ
- 日本紅斑熱
- SARS(重症急性呼吸器症候群) など

再興感染症

- 結核
- デング熱
- コレラ
- マラリア
- 狂犬病

など

創刊号からの掲載予定

2015年12月号(創刊号): ノーベル賞受賞者・大村智先生とフィラリア
2016年1月号: エボラウイルス病
2016年2月号: 結核
2016年3月号: HIV感染症
2016年4月号: マラリア